

# 企業ニュース 国際石油開発帝石

(東証1部：1605) <http://www.inpex.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

## 国内大手の資源開発会社

2006年、国際石油開発と帝国石油による共同持ち株会社・国際石油開発帝石ホールディングスとして設立された。石油や天然ガスの探鉱・開発・生産・販売などを行う、国内大手。2008年に、事業会社と合併し、現社名に変更した。旧帝国石油は1941年に各社の石油鉱業部門を一元化するために設立された国策会社。国際石油開発は1966年、北スマトラ海洋石油資源開発として設立された、海外での石油資源の自主開発を推進する企業。

2018年7月イクシスLNGプロジェクト（以下イクシス。当社が日本企業として初めて操業主体として事業を推進する大型プロジェクト）での生産が開始された。同プロジェクトでは、徐々に稼働率を上げ、長期にわたる業績貢献が期待されている。

## イクシスLNGプロジェクトの概要

項目	内容
位置	西豪州沖合約200Km
権益比率	62.245% (オペレーター)
保有周辺18鉱区の状況	探鉱活動中、ガス構造発見11鉱区
生産期間	約40年
生産開始	2018年7月 (10月出荷)
生産計画 (LNG)	年間約890万トン
同 (LPG)	年間約165万トン
同 (コンデンセート)	日量約10万バレル (ピーク時)

(出所) 国際石油開発帝石資料よりCAM作成

## イクシスの利益貢献始まる

19.3期業績の会社計画は、売上高が9,710億円、前期比4%増、当期純利益が820億円、同103%増。第3四半期決算時点（2月12日公表）で、従来予想を純利益で220億円引き上げた。イクシスにおける上振れや一過性損失などを織り込み、第4四半期（1-3月）の前提条件もブレント価格が60ドル/バレル（従来前提70ドル/バレル）に見直した。イクシスの稼働は順調で、原油価格も年初より上昇傾向で、上振れ余地もあろう。なお、通期決算の発表は5月13日を予定。

19.12期（今期より決算期変更）業績は、イクシスの通年寄与（19.3期は10月以降の業績貢献）で大幅増益を予想（前第3四半期累計との比較）。原油価格や為替変動などの影響は大きい。年初に大きく下落した原油価格やドル（円高方向）は、徐々に上昇・円安方向に推移しており、懸念は低かろう。中期的にもイクシスの収益貢献拡大が期待される。22.12期の同事業による純利益は1,000億円超の想定。当社はイクシス周辺に有望な多くの鉱区を持つため、その開発進捗などが次のカタリストとなろう。

## [株価動向・投資判断]

資源価格変動の影響は大きい。中期的な成長が期待できる銘柄として中期スタンスで臨みたい銘柄。イクシスの利益貢献、周辺鉱区などの開発進捗を注視したい。

<1605 国際石油開発帝石 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	874,423 (▲13)	336,452 (▲14)	333,891 (▲11)	46,168 (175)	31.6	18.00
18.3	933,701 (7)	357,363 (6)	387,269 (16)	40,362 (▲13)	27.6	18.00
19.3推	971,000 (4)	466,000 (30)	493,000 (27)	82,000 (103)	56.2	24.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価 (2019/4/15)	1,059.0 円
年初来高値 (高値日)	1,186.5 円 (19/2/13)
同 安値 (安値日)	959.5 円 (19/1/4)
予想 P E R (19.3推)	18.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,053.4 円
P B R	0.52 倍
予想配当利回り	2.27 %
(1株当たり配当金 24.00円)	
R O E (18.3)	1.4 %
発行済み株式数	146,232 万株